

| 1-1 建物概要 | | 1-2 外観 | |
|----------|-------------------------|--------|-----------------|
| 建物名称 | (仮称)厚木ロジスティクスセンター新築工事 | 階数 | 地上4F |
| 建設地 | 神奈川県厚木市長谷字依胡田123番1 他22筆 | 構造 | S造 |
| 用途地域 | 準工業地域 | 平均居住人員 | 264 人 |
| 地域区分 | 6地域 | 年間使用時間 | 8,760 時間/年(想定値) |
| 建物用途 | 工場 | 評価の段階 | 実施設計段階評価 |
| 竣工年 | 2018年7月 予定 | 評価の実施日 | 2017年6月7日 |
| 敷地面積 | 16,755 m ² | 作成者 | (株)ティーディーシー |
| 建築面積 | 8,341 m ² | 確認日 | 2017年6月8日 |
| 延床面積 | 32,903 m ² | 確認者 | 浅井謙建築研究所(株) |



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.5

標準計算
 ① 参照値
 ② 建築物の取組み
 ③ 上記+②以外のオンサイト手法
 ④ 上記+オフサイト手法

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 3.2

| Q1 室内環境 | Q2 サービス性能 | Q3 室外環境 (敷地内) |
|--|---------------------------------------|---|
| Q1のスコア = 0.0 | Q2のスコア = 3.7 | Q3のスコア = 2.8 |
| 音環境: N.A., 温熱環境: N.A., 光・視環境: N.A., 空気環境: N.A. | 機能性: N.A., 耐用性・信頼性: 3.1, 対応性・更新性: 4.4 | 生物環境: 3.0, まちなみ・景観: 3.0, 地域性・アメニティ: 2.5 |

LR のスコア = 3.5

| LR1 エネルギー | LR2 資源・マテリアル | LR3 敷地外環境 |
|--------------------------------|--|---|
| LR1のスコア = 0.0 | LR2のスコア = 3.7 | LR3のスコア = 3.3 |
| 建物外皮の熱負荷自然エネルギー 設備システム効率化効率的運用 | 水資源保護: 3.4, 非再生材料の使用削減: 3.8, 汚染物質回避: 3.7 | 地球温暖化への配慮: N.A., 地域環境への配慮: 3.5, 周辺環境への配慮: 3.1 |

3 設計上の配慮事項

| 総合 | その他 |
|--|---|
| 淡い色調を基調とした外装とし、敷地境界には積極的な緑化を図ることで、周辺環境との調和を図った計画としている。 | |
| Q1 室内環境 | Q3 室外環境 (敷地内) |
| | 高木には神奈川県在来種であるシラカシ、低木には「厚木市まちなみ条例」で推奨されているアベリアを選定する一方で、侵入的外来種の植樹は避け、生物環境保全に努めている。 |
| LR1 エネルギー | LR3 敷地外環境 |
| | 適切な量の駐車場確保や、駐車場導入路の計画により、近隣への交通負荷を抑制している。 |

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される